

関東地区第8回 研究発表会報告

関東地区課題研究 第8回会合は、次のように行われました。そのレジュメは、資料として、添付致します。

日時:2012年04月28(土) PM14:00~17:00

場所:中央大学理工学部6号館8階、人文社会教室会議室(6814号室)

出席者

小田倉泉、駒木根剛、岸信行、豊泉清浩、鳥光美緒子、中島朋紀、黛幸一郎、湯川嘉津美

欠席者

佐久間裕之

研究発表者と題目(レジュメは添付資料)

駒木根 剛 「子育て支援の時代におけるペスタロッチーの意義について—『隠者の夕暮』における「家庭生活」をめぐって—

岸 信行 「フレーベル教育学における「幼稚園」創設の根本理念—その目的の主旨について—

関東地区第8回研究発表会は、2012年04月28日(土)、中央大学理工学部で開催された。

発表は、まず、新たに加わった駒木根会員が、「ペスタロッチーからみた子育て支援」という題で、特にペスタロッチーの『隠者の夕暮れ』を手掛かりに、彼が考えた子育ての支援策についての考察がなされた。彼が子どもと接する過程で何を大切に考えていたかということについての発表の後、発表者が現実の幼児教育の場で感じるさまざまな問題にふれながら、今後の幼児教育の現実的な支援策についての見解が述べられた。駒木根氏は、現実の幼児教育の場で出会う学生や、また子育てに携わっている若い母親との交流を通して考えることを述べられ、そのあと、出席者からの感想と、これからの「子育て支援」の在り方など、多方面にわたる議論に発展した。

中間に休息、懇談の時間をはさみ、後半の発表となったが、発表は、岸による「フレーベルにおける幼稚園設立の精神」と題するもので、フレーベルが構想した幼稚園は、単なる子ども預けの施設ではなかったし、また現代のような有名幼稚園に入るための予備校、「読み・書き・算盤」を教える場でもなく、その施設は、親、特に母親が十分なる配慮をいたし、子どもと遊びのなかで「生命の合一」を会得する「子育てを支援」する施設だったことが紹介された。そして、それは、フレーベルが、カイルハウから教育について考え抜いた集大成だったことが、彼自身の書いた文献を中心に発表された。更には、そのような幼稚園がどのようにして始まり、「幼稚園禁止令」がなぜ発布されたのかが述べられ、フレーベルはその「禁止令」が解除されるのをしらずに、その禁止令排除運動のさなかに、この世を去ったことがのべられた。

主として駒木根会員は、ペスタロッチーの生きた時代の子どもたちの問題点から、現代日本にも通じる幼児教育の在り方が問題にされ、岸はフレーベルが歳を重ねるにつれ、幼児教育に傾倒していった理由を考えながら、やはり、現代日本の幼児教育がどのような支援策を必要としているのかについて間接的ではあるが考える視点を提供したと言えるであろう。

総合的な討議では、なぜ、フレーベルが株式の形式で幼稚園をはじめたのかという問題や、「ペスタロッチーの居間」などのキーワードから、これからの日本の「子育て支援」の在り方をめぐる問題が、多方面に広く論議された。午後 5 時 15 分頃閉会した。

次回の関東地区・研究発表会の予定は、次の通りである。

日時: 2012年07月21日(土) PM14:00~17:00

場所:中央大学理工学部 6 号館 8 階、人文社会教室会議室 (6814 号室)

発表者・発表題目

群馬大学

豊泉 清浩 「フレーベル教育学研究における父性と母性の観点について」

鎌倉女子大学短期大学部

中島朋紀 「道徳性の育成における親子関係—ペスタロッチーを手がかりとして—」(仮題)